

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

第130号 会 報 1990年11月15日

役員選挙特別号

目 次

I 第16期学会役員選挙広報	1
II [磁気圏嵐]に関する箱根チャップマン会議報告	5
III 教官公募	6

I 第16期学会役員選挙広報

第16期(1991-1992年度)地球電磁気・地球惑星圏学会役員選挙を下記の通り施行致します。

投票にあたっては本会報中の学会規約および内規の抜粋、現役員名を含む過去7期間の歴代役員一覧、及び添付の本学会正会員の名簿を御参照下さい。第84回総会(63.10.13)において改正された本学会役員選挙内規に基づき評議員および運営委員として立候補された方々は後記役員立候補者一覧の通りです。前回同様、会長1名と評議員9名、運営委員14名の連記による投票となりますが、今回は立候補者数が定員に達していませんので会員名簿を参照のうえ、地域、分野、機関等のバランスを配慮した新規役員の選出をお願い致します。

記

投票要項 会長および評議員候補者はピンク色の投票用紙に、運営委員候補者名は緑色の投票用紙に記入し、2種の投票用紙を共に同封の小封筒に入れ、返信用封筒を用いて郵送して下さい(切手の貼付は不要です)。

投票締切 1990年12月10日受取分まで。

郵送先 〒113 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

(財)日本学会事務センター内 地球電磁気・地球惑星圏学会宛

役員立候補者一覧

A. 評議員立候補者名 (1名)

氏名	年齢	勤務先	研究分野	推薦者
恩藤 忠典	55	通信総合研究所	磁気圏および電離圏の物理 (特にVLF電磁波現象) 火山活動に伴う電磁波現象	丸橋克英、岩本巖 小川忠彦、渡辺成昭 (通総研)

B. 運営委員立候補者名 (6名)

氏名	年齢	勤務先	研究分野	推薦者
小川 忠彦	46	通信総合研究所 平磯宇宙環境センター	電離層物理 電離圏電波伝搬	丸橋克英 (通総研) 菊地 崇 (通総研)
鳥居雅之	44	京都大学理学部 地質学鉱物学科	古地磁気学	林田明 (同志社大・工) 渋谷秀敏 (大阪府立大・総合科学部)
町田 忍	38	宇宙科学研究所 太陽系プラズマ	磁気圏プラズマ	向井利典 (宇宙科学研究所) 小山孝一郎 (宇宙科学研究所)
長野 勇	46	金沢大学工学部 電気情報学科	磁気圏・電離圏プラズマ 波動の理論及び観測	木村磐根 (京大・工) 松本紘 (京大超高層電波研センター)
浜野洋三	45	東京大学理学部 地球物理学教室	固体地球物理学	笹井洋一 (東大地震研) 歌田久司 (東大地震研)
前沢 洵	45	名古屋大学理学部 物理学教室	磁気圏及び太陽風物理学	村山喬 (名大理) 寺沢敏夫 (京大理)

選挙関連規約及び内規（抜粋）

地球電磁気・地球惑星圏学会規約

第 3 章 役員

第 8 条 本会に次の役員を置く。

会長 1 名 評議員 10 名 運営委員 14 名

ただし、同一人が 2 つ以上の役員を兼ねることはできない。

第 9 条 会長、評議員、運営委員は内規に定めるところに従って正会員の互選によって決める。

ただし会長は無投票で次期評議員となる。

第 10 条 会長は本会を代表し会務を総括する。但し会長に事故のある時は内規の定めるところに従って会長代理をおく。

第 11 条 評議員は評議員会を構成し、第 20 条に定める会務を行う。

第 12 条 運営委員は運営委員会を構成し、第 21 条に定める会務を行う。

第 13 条 役員任期は 2 年とする。会長は重任することは出来ない。役員に欠員を生じた時は、内規で定める次点者で補い、補欠役員の任期は前任者の残任期間とする。役員はその任期満了後でも後任者が就任するまでその職務を行う。

第 14 条 本会の事務を処理するため会員多数の研究機関には連絡員をおくことができる。連絡員は会員の中から会長が本人の承諾を得て委嘱する。

地球電磁気・地球惑星圏学会内規

第 2 条 役員選挙は次の通りとする。

1. 会長の選出は単記無記名投票で行なう。ただし最高得票者が 2 名以上ある場合には最年長者が会長に就任する。

2. 評議員の選出は 9 名連記無記名投票を行い、得票数の順位に従って上位 9 名を当選者とする。なお得票同数者がある場合には年長者を当選者とする。

3. 運営委員については下記の様式にしたがい 14 名連記無記名投票を行い、合計得票数の順位に従って上位 14 名を選出する。なお得票同数者がある場合には年長者を当選者とする。

主として地球外部物理学を研究するもの 3 名

主として地球内部物理学を研究するもの 3 名

東北・北海道地区に在住するもの 1 名

関東地区に在住するもの 4 名

中部地区に在住するもの 1 名

関西以西地区に在住するもの 2 名

ただし同一人を評議員と運営委員に重複して記載してもさしつかえない。なお、3 期連続運営委員経験者は次期の運営委員として選ばれても辞退することができ、通算 5 期経験者は再任を永久に辞退することができる。これらの氏名は選挙に先立ち全会員に通知する。

4. 正会員は 2 名以上の他の正会員により推薦された場合、評議員または運営委員に立候補することができる。この場合学会は選挙広報に立候補者の氏名、勤務先、研究分野、推薦者名などを掲載し、投票に際しての参考資料とする。

5. 前項の選出において、もし同一人が 2 種以上の役員に当選した場合は、本人の意志によりその一つを選ばなければならない。

6. 前項のために定数に欠員が生じたときは、次点者を繰り上げ当選とする。

歴代役員一覧（第9期以降）

	第9期 1977-1978	第10期 1979-1980	第11期 1981-1982	第12期 1983-1984	第13期 1985-1986	第14期 1987-1988	第15期 1989-1990
会長	前田 坦	加藤 進	平尾邦雄	小口 高	小嶋 稔	木村磐根	行武 毅
評議員	上山 弘 大林辰蔵 福島 直 加藤 進 長島一男 永田 武 広野求和 力武常次 田中春夫 平尾邦雄	前田 坦 大林辰蔵 福島 直 上山 弘 力武常次 永田 武 長島一男 広野求和 平尾邦雄 田中春夫	加藤 進 福島 直 大林辰蔵 前田 坦 上山 弘 力武常次 永田 武 小嶋 稔 広野求和 長島一男	平尾邦雄 福島 直 大林辰蔵 加藤 進 上山 弘 前田 坦 力武常次 小嶋 稔 広野求和 行武 毅	小口 高 大林辰蔵 加藤 進 福島 直 平尾邦雄 行武 毅 力武常次 大家 寛 上山 弘 西田篤弘	小嶋 稔 西田篤弘 松浦延夫 杉浦正久 安川克己 大家 寛 加藤 進 中沢 清 若井 登 行武 毅	木村磐根 安川克己 平沢威男 恩藤忠典 森 寛 広岡公夫 大家 寛 西田篤弘 加藤 進 小嶋 稔
運営委員	北村泰一 大家 寛 行武 毅 河野 長 荒木 徹 西田篤弘 佐藤哲也 小林和男 等松隆夫 小嶋 稔 平沢威男 河島信樹 恩藤忠典 小川利紘	北村泰一 河野 長 行武 毅 大家 寛 佐藤哲也 小嶋 稔 荒木 徹 小川利紘 松本 紘 斎藤尚生 安川克己 恩藤忠典 河島信樹 平沢威男	河野 長 斎藤尚生 松本 紘 安川克己 小川利紘 北村泰一 本蔵義守 平沢威男 恩藤忠典 佐藤哲也 河島信樹 小林和男 上出洋介 荒木 徹 鶴田浩一郎 新妻信明	鶴田浩一郎 本蔵義守 小川利紘 松本 紘 安川克己 国分 征 大家 寛 丸橋克英 佐藤哲也 福西 浩 飯島 健 恩藤忠典 広岡公夫 住友則彦	本蔵義守 住友則彦 広岡公夫 新妻信明 鶴田浩一郎 飯島 健 松本 紘 国分 征 河野 長 福西 浩 丸橋克英 浜野洋三 伊勢崎修弘 荒木 徹	松本 紘 深尾昌一郎 柳沢正久 向井利典 乙藤洋一郎 福西 浩 山越和雄 田中義人 本蔵義守 近藤 豊 鳥居雅之 住友則彦 河野 長 鶴田浩一郎	浜野洋三 本蔵義守 乙藤洋一郎 深尾昌一郎 寺沢敏夫 鳥居雅之 福西 浩 丸橋克英 小山孝一郎 佐藤夏雄 林 幹治 近藤 豊 西谷忠師 西田泰典

II [磁気圏嵐] に関する箱根チャップマン会議報告

米国地球物理学連合 (AGU) と地球電磁気・地球惑星圏学会の後援の下に企画された [磁気圏嵐] に関するチャップマン会議は、9月3日から7日まで箱根観光ホテルに於て開催された。海外からの参加研究者は、12ヶ国、72名、総計149名となり、当初の予想を越える盛会であった。わが国からは、20名の大学院生を含め多くの若手研究者の参加があり、著名な研究者の講演や討議を通じて多くの刺激を受けたものと思われる。

会議は40の招待講演を中心として、最新の成果を問う5つのセッション

1. Substorms and Magnetopause/Boundary Layer
2. Substorms and Magnetotail
3. Substorms and Inner Magnetosphere
4. Substorm Current System and Auroral Dynamics
5. Substorm model and Synthesis

他、Historical Review 及び Future Programs の7つのセッションに分かれて行われた。

一般の応募論文約90のうちの大半は、ポスターセッションで発表された。観測面では、NASAのDE、スウェーデンのV I K I N G及び日本のAKEBONO衛星によるオーロラ画像を用いた最新の研究成果が紹介され注目を集めた。数年前まで、その存在に対して多くの論争を呼んでいた磁気圏嵐発達のモデル、"Growth Phase"の考えが、多くの論文に取り入れられていたことも印象的であった。特にSession 5. では、磁気圏嵐に関するいくつかのモデルが提出され議論されたが、観測面でも理論面でも今後の研究にその解決を待つべき点が残されていることが指摘された。この会議を通じて、あるコンセンサスが得られたと思われることは、爆発的な磁気圏嵐の発達をもたらす過程は、以前考えられたより地球に近い領域、静止衛星軌道から地球半径20倍程度の領域、で発達するのではないかと云う考えである。観測データの解釈に、これまでよく取り上げられてきたいわゆる "Current Wedge Model" もその一つで、この "current wedge" の生成機構を説明しようとする試みもいくつか発表された。1990年代には、I S T P 計画に代表されるいくつかの国際的な磁気圏研究計画が進められるが、このようなプログラムを通じて今後この研究分野のいっそうの発展が期待される。

従来、わが国における国際会議は、東京や京都などの大都会で開催されることが多かったが、今回大都会を離れ、富士・箱根国立公園の箱根仙石原で開催したことは、結果的には大変好評であった。こうした比較的小さい会議の場合は、会場と宿泊が分散せずとままり個人的な接触到便利なのが望ましいが、この点でも会場をリゾート地のホテルに選んだことは費用の点を除いてはほぼ満足できたようである。レンタカーを借り外へ出ることも儘ならなかったせいも、最終日の最後のセッションまで、90%を越える出席率であった。また、富士山に近いこともあり、会期中あるいは会議終了後富士登山を試みた人達が約10名ほどになった。なお、この会議の一つの成果を示すものとして、プロシーディングがAGUモノグラフとして、来年の8月出版を目標として編集される。

この会議は、科学研究費補助金 [総合研究 A 磁気圏嵐の研究：現状と展望、研究代表者 國分 征 (東京大学理学部)] の研究の一環として計画され、神和光器有限会社、日本電気株式会社、日本飛行機株式会社、東芝株式会社、浜松ホトニックス株式会社および明星電気株式会社のご援助の下に開催されました。米国地球物理学連合のチャップマン会議として、この会議の準備に当たった T.A.Potemra 博士 (The Johns Hopkins University Applied Physics Laboratory), J. R. Kan 博士 (Geophysical Institute, University of Alaska) とともに、ご援助を頂いた各社に心からお礼を申し上げます。

1990年9月26日

東京大学理学部地球物理研究施設 國分 征 飯島 健

III 教官公募

名古屋大学太陽地球環境研究所

公募部門、公募分野

1. 大気圏環境部門 教授または助教授 1乃至2名

公募分野： 広く大気圏環境に関連するウェットケミカル領域、及び、物質変換にかかわる放射関連領域

2. 太陽圏環境部門 教授 1乃至2名

公募分野： 粒子観測に基づく太陽圏変動研究領域、及び、太陽風観測を中心とする太陽圏変動研究領域

3. 総合解析部門 教授 1名

公募分野： 太陽地球系科学における総合資料解析とモデリング、シミュレーションの間をつなぐ研究領域

上記各部門、各分野において太陽地球システム研究の発展と育成に指導的役割を果たすとともに、広く太陽地球系科学の教育にもあたって頂ける方を希望します。

着任時期： 平成3年度のできるだけ早い時期

提出書類： 略歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷、研究計画書並びに本人について意見を述べられる方2人の氏名と連絡先（自薦の場合）、推薦書（他薦の場合）

公募締切： 平成3年1月5日

候補者選考：名古屋大学太陽地球環境研究所人事委員会の選考に基づき、運営協議会の意見を求めて、同教授会で決定します。

宛先、問い合わせ先： 〒442 豊川市穂の原3-13

名古屋大学太陽地球環境研究所長 小口 高

電話 05338-6-3154

<<会報へのご提案、ご意見、情報提供、寄稿、お待ちしております。>>

会長、総務、庶務までご連絡下さい。

会長 行武 毅 東京都文京区弥生1-1-2 東京大学地震研究所
電話 03-812-2111 (内) 5735 FAX 816-1159

総務 浜野洋三 東京都文京区弥生2-11-16 東京大学理学部地球物理教室
電話 03-812-2111(内)4293 FAX 818-3247

庶務 林 幹治 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学理学部地球物理研施設
電話 03-815-8020 Fax 818-0745
電子メール d32758@tansei.cc.u-tokyo.ac.jp
d32758@TOKYO

地球電磁気・地球惑星圏学会

〒113 東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル

(財)日本学会事務センター内

電話 (03)817-5801

FAX (03)817-5800